

# 名古屋ビジョン

～未来を築く7つの宣言～



「名古屋ビジョン」は、「市民の生活が第一」をモットーに、名古屋市政をリードしてきた民主党愛知県総支部連合会が、225万市民の「笑顔と夢があふれるまち名古屋」を実現するために提言するものです。

名古屋で生まれ育ち、老後まで安心して暮らせる社会の構築を図るために、我々が重点とする施策を「未来を築く7つの宣言」として民主党名古屋市会議員団が中心となりまとめました。

将来の地方分権を見据え、「名古屋のことは、名古屋が決める」体制作りを進めるとともに、少子高齢化の急速な進行と経済不況下での厳しい財政状況が続く中、市民の目線に立った改革を断行してまいります。

## 1. 子どもは社会の宝宣言

- ・中学校3年生までの医療費無料化を実現します。
- ・保育所の待機児童ゼロを実現します。
- ・小児・産科の救急医療体制を確立します。
- ・妊婦健康診査の公費負担検診回数については、14回を目指します。

## 2. 教育先進都市宣言

- ・教育予算を大幅に増額し、教育環境の整備を着実に進めます。
- ・トワイライトスクールと学童保育との一元化により、より良い放課後児童対策を実現します。
- ・部活動顧問派遣事業の実施校数を拡大し、部活動の充実・活性化を図ります。

## 3. 防災・防犯まちづくり宣言

- ・市施設の耐震化を早急に進めます。
- ・ゲリラ豪雨に対応した浸水対策を早急に進めます。
- ・犯罪のない「安心して暮らせる明るいまち名古屋」を実現します。

## 4. ムダづかいゼロ宣言

- ・市債の発行を抑制し、名古屋市の借金を計画的に減らします。
- ・大型事業については、見直しを含め、コスト縮減を図ります。
- ・区役所改革を推進するとともに、自主的な定員管理や予算の執行権を区役所に委譲し、市民の目線に立った区役所行政を実現します。
- ・外郭団体を統廃合し、幹部クラスの天下りを禁止します。
- ・「安かろう、悪かろう」ではなく、「品質」を確保できる入札制度を実現します。

## 5. 環境首都宣言

- ・COP10を成功させ、生物多様性の保全に取り組めます。
- ・CO<sub>2</sub>排出削減のため、公共交通利用者がトクする施策を推進します。
- ・ゴミ減量、資源化をさらに推し進め、発生抑制を強化します。

## 6. なごやか生活宣言

- ・なごや観光条例（仮称）を制定し、観光客誘致や、ものづくり文化の継承発展に取り組めます。
- ・中小企業への貸し渋り対策を行います。
- ・地産地消を推進し、「食の安全」を確保します。
- ・高齢者、障がい者、若年者、ひとり親家庭への就労を強力に支援します。
- ・高度先進医療機器の導入と、優れた医療スタッフの確保を進め、誰もが安心して医療を受けることができる「高度先進医療都市なごや」を実現します。

## 7. 元気はつらつ85歳宣言

- ・敬老パスは、65歳以上からの交付を堅持します。
- ・大規模特別養護老人ホームや介護施設などを積極的に整備します。

## 松原市政の 12 年間

松原市長の 3 期 12 年間は、「ごみ減量と環境」「少子高齢化」「安心・安全」「市民との協働」「厳しい財政事情」という 5 つの言葉に凝縮される。

### 1 「ごみ減量」から「環境首都」への飛躍

「ごみ市長」 1 期目の松原市長は、代名詞となったこの言葉に象徴されるように、ごみとの闘いであった。

始まりは、「藤前干潟の埋め立て断念！」であった。その英断は、「ごみ非常事態宣言」の発動となり、追いつめられていたごみ問題を、行政だけでなく市民とともに考え、行動し、解決していく機運を醸成した。当初掲げた「20 万トンのごみ減量」の実現は、市長のリーダーシップと「市民との協働」の成果であるといえる。

以来、この「市民との協働」を力にして次々と環境施策を展開していった。「名古屋方式の分別」とリサイクル推進、「環境デーなごや」から地域のクリーンキャンペーン活動や環境教育の拡大、レジ袋有料化の全市での実施、名古屋交通戦略による CO2 削減計画の推進など、「環境先進都市」「循環型社会の実現」から「環境首都」への道筋をつけ、COP10 を誘致することに成功した。「環境首都」への道半ばとはいえ、松原市政 12 年間の最大の成果であるといえる。

### 2 急速に進行する「少子高齢化」に適切に対応

少子高齢化が急速に進行する中で、次世代育成支援・少子化対策は、喫緊の重要課題である。その重要性に鑑み、「子ども青少年局」を創設し、「子育てするなら名古屋で」を合い言葉にした子育て支援策を次々と打ち出し、施策の拡充を図った。直近では、子どもの医療費無料化を段階的に拡充してきた中で、本年度は「小学校 6 年生までの入院・通院、中学校 3 年生までの入院」無料化を実施した。また、第 3 子の保育料の無料化やトワイライトスクールの全校実施を実現した。

学校教育においては、家庭・地域との連携を重視した名古屋発の「教育改革プログラム」を策定し、他都市に先がけて 1、2 年生の 30 人学級を実施した。また、少人数指導担当教員の配置拡大、スクールカウンセラーの中学校への全校配置、部活動外部講師や顧問派遣事業の拡大など、児童・生徒ひとり一人に行き届いた教育を実現するための諸施策を展開した。また、学校規模の適正化を図るために、小規模校の統合や過大規模校の解消に向けての新設校の設置も推し進めた。

一方、高齢者に対する福祉では、敬老パスについて一部負担金の導入を図りつつ、「敬老パスは 65 歳からの交付を堅持し、将来にわたって持続的、安定的に交付する」こととした。これは、他都市の追従を許さない特筆すべき施策といえる。

また、特別養護老人ホームや在宅サービスセンターなどの拡充や福祉給付金による医療費自己負担金の助成など、老後を安心して暮らすための環境を着実に整えてきている。

### 3 「安心・安全」で活気あふれるまちづくりの推進

「安心・安全なまちづくり」についても、積極的に施策を推進した。

東海地震などの災害に対応するために国に先んじて実施した全小中学校の耐震工事、学区ごとの自主防災組織づくりや緊急雨水整備計画の推進による 60 mm の貯留管敷設などの防災対策は、全国に誇りうる施策である。

また、地下鉄名城線の環状化や桜通線の野並から徳重への延伸、あおなみ線の開通など、交通基盤の整備を推し進めたり、「安心・安全で快適なまちづくりなごや条例」を制定し、路上喫煙の規制や自転車有料化を始めとした自転車対策などを実施したりするなど、快適な市民生活の実現を推進したことも、先進的な施策といえる。

さらに、市民の健康と生命を守る施策として、市立病院整備計画とともに「クオリティライフ 21 城北構想」を策定し、「病院局」を創設して、救急医療や高度医療の充実と経営健全化を推し進めている。

一方、「オアシス 21」や「明日ナル金山」をオープンさせ、活気ある街づくりにも力を尽くした。また、2005 年万博「愛・地球博」を成功に導き、トリノ市と姉妹友好都市提携を実現し、国際交流を推進した功績も大きい。景気が低迷していた数年前でも、「元気な名古屋」と言われるほどに経済の活性化を図ったことは、驚嘆に値する。

### 4 「厳しい財政事情」の中で手腕を発揮

「厳しい財政事情」は、数々の大きな成果を上げてきた松原市政の 12 年間を通じて、常について回り、施策を展開する上での足かせとなってきたであろう。しかし、そんな状況下だからこそ、市長としての手腕が問われることになるとも言えるし、結果としてその力を十分に発揮してきたと考える。

一には、迅速に財政健全化計画を打ち出し、全国に先がけて全事務事業の行政評価を行い、他都市では例のない財源配分型予算の執行を行った。また、計画的な定員管理による職員数の削減、給与の削減などを断行してきた。その結果、毎年度の市債発行を抑制し、市債残高の削減を実行してきている。

そんな中、昨年発覚した「不適切な会計処理」いわゆる裏金問題は、名古屋市全体を震撼させ、市民の行政に対する信頼を大きく揺るがした。松原市長にとって痛恨の極みであろうし、議会のチェック機能のあり方が問われることともなった。事後の対応については、迅速、適正に処理されたと考えるが、松原市政 12 年間の最大の危機であった。

## 5 松原市政の12年間

民主党名古屋市会議員団は、この12年間名古屋市会第一党として「是々非々」の立場で松原市長を支えてきた。ときには激しく議論を闘わせ、ときには強く政策要望を行い、さまざまな改革を提言し、市民の声をしっかりと届けてきた。

それに対して松原市長は、自らが行動することによってリーダーシップを発揮し、「市民との協働」の下、目標とする「誇りと愛着の持てるまち・名古屋」の実現に向けてひた走ってきた。急激に変化する社会状況と厳しい財政状況下でも、幅広く、多岐にわたる施策をバランスよく、着実に推進してきた。とりわけ、「敬老パスの交付 65歳の堅持」「子ども医療費の無料化拡大」や「精神障害者へ医療費無料化」等々、政令市の中でもトップに位置する施策も多く、「政令市のトップランナー」を標榜するものである。

その一方で、4大プロジェクトを始めとした大型事業については、さまざまな論議を呼んでいる。いづれの事業も何十億、何百億という財源を必要とし、負債の増加も懸念されることから、コストの縮減や期間の延長などを視野に入れた見直しも必要となるであろう。また、本市の財政は、慢性的な「厳しい財政事情」に加えて、米国発の世界的な経済不況の影響で、さらなる歳入不足が予想される。すでに「あれも、これも」から「あれか、これか」へと施策展開の転換を図るときがきているといえる。

2010年には、名古屋は開府400年を迎える。松原市長は、この2010年を一つの到達点として「名古屋新世紀計画 2010」を策定し、施策を着実に推進してきた。その道のりは、たいへん厳しかったであろうが、名古屋の明るい未来を展望し、市民の安心・安全で豊かな暮らしを創造しながら、未来を担う子どもたちに「誇りと愛着の持てるまち・名古屋」を手渡すために奮闘した松原市長の12年間の、私たちは高く評価し、敬意を表するものである。